

まほろば



2010.12
第113号

医療の中のNST

NSTは「栄養サポートチーム」の略称であり、栄養についてのサポートを、医師、看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士など多職種で実践する集団（チーム）です。当院では4年前にNSTを立ち上げ、現在27人のメンバーで活動しています。

主な活動は、

- 1) 入院時、栄養状態に問題がないかをチェック（栄養スクリーニング）する、
- 2) 栄養状態に問題のある患者さんに、チームで回診をしながら、栄養療法につきサポートする、
- 3) NSTの勉強会や栄養剤について職員に情報提供をする、

などです。さらに、2年前から、栄養不良が大きく関与する褥瘡（床ずれ）の対策も兼ね、ベッドマットの選択など褥瘡予防をサポートしています。

さて、入院中の約40%の患者さんが低栄養状態にあるとの報告があります。病状にもよりますが、低栄養の進行を防ぐため、早期の栄養スクリーニング、栄養状態の把握（評価）、適切な栄養療法の提案、その後の栄養状態について評価を繰り返す意義は高いと思います。たとえば、回診の結果、食事の形態や量の変更により経口摂取量がアップする場合がありますし、栄養剤、点滴（輸液）の選択で患者さんの回復が早まる場合も

あります。栄養療法すべてが治る訳ではありませんが、栄養療法は「病気が治る」ための重要な因子と考えます。

現在、メンバーは、一般業務を行いながら、NSTを兼任しています。各職種の専門性を活かしての活動ですが、サポートを続けていくにはメンバー全体のレベルアップが必要です。今回、10月と11月に各病棟のNSTメンバーを対象に、院内研修（1日約8時間の集中講義）をしました。講師は当院のNSTメンバーが行い、講師自身が研究を深めて、質の向上をめざしています。

当院のNSTの課題として、NSTのさらなる活用、外来の患者さんに対するサポート、さらに他の医療施設との連携の必要性など多々ありますが、「栄養はすべての治療の基本である」をモットーにこれからも活動していきます。



NSTリーダー(外科医長): 横山 昌樹

鮮やかに色づく弘前の秋 -弘前城菊と紅葉まつり-



去る10月22日（金）～11月7日（日）、弘前公園内弘前城植物園を会場に「弘前城菊と紅葉まつり」が開催されました。期間中は肌寒い雨天の日が多く、今年はあまりお天気には恵まれませんでしたが、それでも「色鮮やかな津軽の秋を楽しみたい」というたくさんの見物の方々で賑わいました。

今年のメイン会場のテーマは、NHK大河ドラマより「龍馬伝」。色鮮やかな菊花を纏った龍馬は、どことなくドラマの主演の福山雅治さん似。（そのせいかどうか、写真を撮っている方は若い女性がちょっと多いような気がしました。）菊人形の着替実演コーナーでは、ちょうどお召し替え中の武士にも会えました。なかなか間近に見ることのできない作業だけに、立ち止まって見入っている方がたくさんいました。

毎年人気のミニSL無料運行は、12月4日の新幹線開業目前ということから、ちびっこ新幹線が運行され、順番を待つ子供達の長い列ができていました。また、園内を巡ってのスタンプラリーのプレゼントは、今年は「たか丸くん」（弘前城築城400年祭のマスコットキャラクター）シール。これまた大人気で、先着5,000名分のシールは早々になくなったとか…。喫茶処では、抹茶を味わいながらほっと一息。しかしながら、深まりゆく秋の気温に、肉まんやあんまんの方が飛ぶように売れておりました。来年は、良いお天気のふんわり暖かい日に、のんびり楽しめたら良いなあ、と思いました。



入院係：工藤 真淑

変形性股関節症～10月市民講座～

最近口コモティブシンドロームということばが注目されてきています。平均寿命が延びることは良いことです、運動器の健康が長寿に追いつかなくなり、歩行が困難になり介護が必要になった状態をコモティブシンドロームといいます。歩けなくなると、誰かが介助してくれなければ食事も排泄もベッド上で行うことになるため、人間の尊厳を保つことができなくなります。

股関節は体を支えながら歩くために重要な働きをする関節です。我々の身体のなかにある関節には軟骨があり、軟骨があるために関節に加わる衝撃を吸収して滑らかに関節を動かすことができます。変形性股関節症とは、この軟骨が変性するために徐々に関節が変形して痛みと歩行障害が出現する病気です。治療には対症的な治療で経過をみる保存療法と、手術を行う方法があります。歩くときには体重の3倍もの力がかかるので、

なるべく股関節に負担をかけないこと、特に体重を増やさないことが重要です。手術にはいろいろな方法がありますが、よく用いられる方法は骨切り術と人工関節置換術です。

人工関節の耐用年数は

約20年といわれているため、人工関節置換術は原則として60歳以上の患者さんが対象となります。手術前にはほとんど歩けなかった人が人工関節の手術を受けると、痛みが劇的に改善して歩行が容易になります。医学は年々進歩しているため、さらに優れた、もっと長持ちする人工関節が開発される日も近いと思います。

整形外科部長：秋元 博之



『NST内部実地研修～Part2～』



11月16日(火)に、各病棟の看護師を対象としたNST(栄養サポートチーム)内部研修、講義2回目を実施しました。

今回は2回目ということで受講生のみなさんはリラックス

しているようでした。

当日は、朝の医局ミーティングから始まり、横山先生による『治療方針』、藤田副看護師長による『褥瘡アセスメント』、寺島師長による『PEG管理』、佐藤

副看護師長による『カテーテル管理』、栄養管理室による『栄養評価』、一戸薬剤師による『簡易懸濁法』、PT工藤先生による『リハビリテーション』、最後に全体ミーティングという流れでした。

受講生のみなさんから「NST活動について理解できた」、「NST活動を行っていくための参考になった」、「今後、学んだことを看護業務に活かしたい」などの感想をいただき、講師一同ほっと胸をなでおろした瞬間でした。

講義は終わりましたが、まだまだ研修は続きますのでみなさんと力を合わせて最後まで頑張っていきたいと思います。

栄養管理室：四釜 諒子

【シリーズ医療安全のとりくみ⑥】

外来の医療安全の取り組み

外来では「患者様の立場を尊重し、不安や苦痛を軽減できるよう迅速な対応を心がけること」をモットーに看護スタッフが「安全」「環境」「接遇」「手順・クリティカルパス」のチームに分かれ活動しています。外来の医療安全の取り組みにおいては「安全対策チーム」が中心的な活動を行っています。今年度は「安全への意識を常に持てるように働きかける」「危険を予知する能力を高め、事故の発生を回避できる環境をつくる」ことを目標とし、医療安全標語の作成、インシデントレポートの分析・周知・共有、5S運動の取り組みの継続を具体的な計画とし

取り組んでいます。その中の5S活動を紹介します。5S活動とは、『整理』『整頓』『清掃』『清潔』『躰』のことです。昨年度は「整理・整頓」に取り組み、各診療科ごとに取り組みの経緯が分かる実行計画書の提出を行いました。書類などで雑然とした印象がある窓口、診察室などが徐々に整理されて変化が見られました。今年度は、「整理・整頓」の意識を根付させ、5S活動の取り組みを継続しており、次のステップである「清潔」を目指し、それぞれの工夫、変化が期待されるところです。

外来リスクマネージャー：太田 宅子



5S取り組み前(5月)物品棚



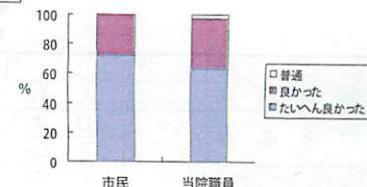
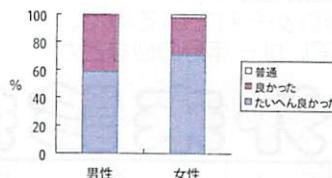
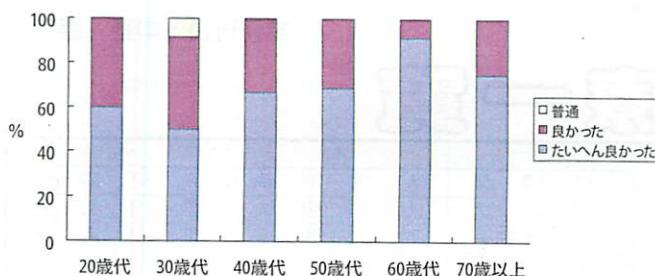
5S取り組み中(10月)物品棚

「弘前病院市民講座」アンケートのゆくえ

当院では8月を除いて毎月1回「市民講座」を実施しています。これは病気の診断や治療、予防、あるいは薬剤や検査、リハビリなど医療全般について、病院内外の講師が市民にわかりやすく解説するもので、本年10月(27日、左ページ参照)で第64回になりました。さて、どのような内容の講座が開講されているか気になるところですが、ここでは、毎回、講演終了時に実施しているアンケートの取扱いについてお話しします。アンケートでは回答者の年齢や性別などの他に、講演の内容は良かったか、講師の話し方は良かったか、講演時間は適切であったか、スライド等の準備はどうか、会場の広さや温度、照明は良かったかなどを質問し、

最後に感想やこれから取り上げて欲しいテーマを記載してもらっています。この後ですが、教育管理委員会でアンケートを集計し、参加者の内訳や講演に対する評価をまとめ、どのような人がどのように評価したかを解析します。そしてこの結果を当日の講師に通知します。また委員会では、アンケート結果をもとに講演内容や会場の状態、さらに自由記載していただいた事柄について検討し、次回以降の「市民講座」の準備をします。このように、アンケート結果は講演者のレベルアップに、また、より充実した「市民講座」の開講に大いに役立っています。

教育管理委員会委員長(臨床研究部長): 泉井 亮



例: 秋元先生(整形外科部長)の講演、変形性股関節症(平成22年10月27日、81名参加、アンケート回収70枚)の「講演内容」についての評価

新病棟建替え工事状況のお知らせ(第2回)

先月号では、安全祈願祭から先月末に杭工事が終わったところまでお知らせしました。

今月は、建物全体の重量を支えることができる強固な地盤に力を伝える構造となっているので、杭と柱の中心位置がずれていないかどうかを最初に確認する必要があります。当院の杭工事では、先月号でもお伝えしましたが、地盤の掘削途中で土が崩れたり、大きな石が障害になったりと様々な障害がありました。が、幸いなことに1箇所(124箇所の内)を除いては何とか設計許容範囲内に収まることができました。

基礎工事は、工事範囲を3つに区分して行っており、1つ目の工区を11月24日にコンクリート打設しました。当日は寒い日ではありましたが、雨(雪!)が降らず天気に恵まれ絶好のコンクリート打設日和でした。が、朝7時からの作業開始は順調にスタートしたのですが、午前中、2台設置したコンクリートポンプ車が次々と故障。また、夕方には隣の工区との繋ぎ目でコンク

リートが吹き出したりというアクシデントに見舞われました。計画では夜7時までには完了する予定でしたが、深夜11時まで作業することとなってしまいました。



西病棟の患者様には、早朝から消灯後までも作業音でご迷惑をおかけし、誠に申し訳ありませんでした。

まだまだコンクリート打設作業がありますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

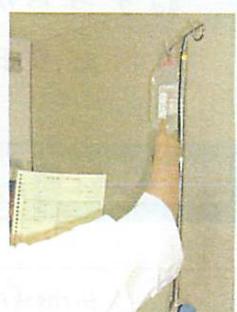
営繕専門職: 三上 勝栄

【リード医療安全のとりくみ⑦】

西2病棟は、消化器・血液内科の患者様を受け入れている病棟です。点滴・注射、内服薬での治療が主となり、ほとんどの患者様が点滴をしながら日常生活を送っています。治療が、安全に確実に行われるよう当病棟では、昨年から患者様に「名前を名乗って頂き確認することを行っています。長期入院の患者様もいらっしゃいますが皆様快く名乗って下さり、確認することができます。また、「指差し声だし確認」を徹底し、事故防止に努めています。この「指差し声だし確認」は何もしないのに比べてエラーを6分の1に減らす効果があるといわれていますので、今後も継続していきたいと思います。

西2病棟における医療安全の取り組み

今年度の取り組みとして、高齢化や病状により、転倒・転落される患者様がいらっしゃるので、特にベッド周囲や廊下に着目し、どうすれば患者様が安全・安楽に療養生活を過ごすことができるのかを考え、西2病棟スタッフ全員で安全意識の向上に努め、対策を考えていきたいと思っています。



西2病棟: 永澤晶子リスクマネージャー

原水槽の清掃作業～安全な水の提供のために～

皆さん、当院の飲料水が井戸水100%だってことを知っていますか？

井戸水を私たちが飲むまでには、いくつかの段階があります。まず、井戸水を汲み上げ『原水槽』に水を貯めます。その後、ろ過装置で雑菌などを消毒し、「受水槽」を経由して、揚水ポンプで建物の屋上にある「高架水槽」に水を送っています。そして、各部屋の蛇口へと繋がっています。

受水槽及び高架水槽の清掃は、専用の資格が必要なため業者に委託していますが、消毒する前の『原水槽』清掃は、職員が毎年一回、秋頃(9~10月)に実施しています。今年は9月24日(金)の午後に事務職員とボイラー技師と一緒にいました。

原水槽の中には、井戸水が直接貯められているので、細かい砂や泥が沈殿され槽の下部には一年分の砂などが

溜まつた状態となっていました。また、壁などについた汚れをジェットウォッシャーやタワシなどで落とし、綺麗に清掃しました。



ちなみに、ろ過装置で消毒する際、毎日ボイラー技師が残留塩素などを測定し、飲み水に関しては毎月専門機関で検査してもらい、「きれいな水」とお墨付きがでていますので、安心して下さい。

業務班長：中野 喜代美

外来診療一覧

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器科		人見 博康	人見 博康	人見 博康	人見 博康	人見 博康
呼吸器科		山本 勝丸	中川 英之	山本 勝丸	中川 英之	中川 英之
		下山 亜矢子	下山 亜矢子	下山 亜矢子	下山 亜矢子	下山 亜矢子
消化器・血液内科		太田 健	太田 健	太田 健	太田 健	—
		松木 明彦	吉谷 元	吉谷 元	吉谷 元	吉谷 元又は大学医師
		大学医師	松木 明彦	松木 明彦	—	松木 明彦
小児科		三上 珠希	野村 由美子	杉本 和彦	野村 由美子	野村 由美子
		杉本 和彦	佐藤 工	三上 珠希	佐藤 工	杉本 和彦
		—	佐藤 次生	佐藤 次生	佐藤 次生	—
外科		田澤 俊幸	高橋 克郎	横山 昌樹	横山 昌樹	三上 勝也
		三上 勝也	三上 勝也	田澤 俊幸	高橋 克郎	横山 昌樹
整形外科	午前	柿崎 寛	柿崎 寛	秋元 博之	秋元 博之	柿崎 寛
		大鹿 周佐	佐々木 規博	大鹿 周佐	能見 修也	秋元 博之
	午後	—	—	—	—	柿崎 寛
脳神経外科		—	—	木村 正英	—	—
皮膚科	午前	熊野 高行	佐藤 正憲	佐藤 正憲	熊野 高行	熊野 高行
		佐藤 正憲	熊野 高行	熊野 高行	佐藤 正憲	佐藤 正憲
	午後	●予約	●手術／検査	●予約	●手術／検査	●予約
泌尿器科	午後	大和 隆	大和 隆	大和 隆	大和 隆	大和 隆
産婦人科		真鍋 麻美	片桐 清一	真鍋 麻美	●妊娠検診	片桐 清一
		柞木田 礼子	小笠原 智香	小笠原 智香	(一般外来休診)	柞木田 礼子
眼科		蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義	蒔苗 順義
耳鼻咽喉科		黒田 令子	黒田 令子	●手術	黒田 令子	黒田 令子
		二井 一則	二井 一則	(一般外来休診)	二井 一則	二井 一則
放射線科	診断	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄	佐々木 幸雄
	治療	—	—	川口 英夫 (午後)	—	—
女性専用外来		杉本 菜穂子	(※予約制／第1・第3火曜日午後診療)			
セカンドオピニオン		—	—	—	今充	—

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

(2010年12月1日現在)

今月の川柳

★川柳募集★ あなたの川柳をお待ちしています。

ねずっしが ねぐせなおして 『ととのいました！』 (車いす)
リハビリ日 朝から気合い さあ行くぞ (目玉やき)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

お知らせ

患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、お気軽にお尋ね下さい。

発行元



Hirosaki National Hospital
独立行政法人国立病院機構

弘前病院

責任者：臨床研究部長 泉井 亮

〒036-8545 弘前市大字富野町1番地

TEL 0172-32-4311

FAX 0172-33-8614

URL <http://www.hosp.go.jp/~hirosaki/>